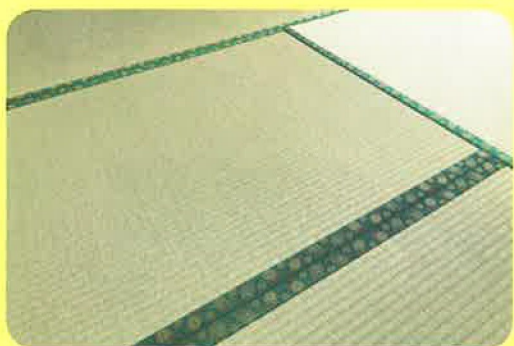


# 和室が住環境にもたらす効果

## 畳



- 断熱効果
- 湿度調整
- クッション性

畳表に用いられるイ草やわらのスポンジ状の構造は水分を吸収・排出し、湿度をコントロールする働きがある。畳床の厚みは約5cmありクッション性が高く遮音効果を持つ。

## 障子



- 遮光機能
- 保湿効果
- 冷暖房効果

障子は直射日光を遮りつつ室内に光を拡散させる働きを持つ。障子紙には保湿効果があるほか、夏に強い日差しを防ぎ、冬に暖かな空気が外に逃げるのを防ぐ効果もある。

## データ3

Q 和室があつて不便だったこと



## 難点は傷みやすさ

実際に和室のある家に住んでみた印象としては、33・3%は「特に不便さを感じない」と回答。一方で、畳が傷みやすいことを気にする声も目立った。畳の寿命はおよそ10年。日焼けや家具の跡残り、液体をこぼしたときにできるシミなど、劣化が目立ちやすい点は不便に思われがちなようだ。また、地べたに座る生活が脚や腰に負担がかかることもあり「生活上姿勢がしんどい」(50代・男性)という声も上がった。

## KEYWORD3

### 畳と帖

畳の規格は大きいものから順に京間、中京間、江戸間、団地間の4種類あり、1帖は中京間の畳1枚分(約1.65㎡)に相当する。洋室の普及に伴い「帖」の表記が用いられるようになった。



# データで見えた

## 和室に関する意識調査

### データ1

## 流行に左右されない人気

賃貸マンション・戸建て賃貸、所有マンション・賃貸マンション・アパートの居住者に「自宅を選ぶとき、和室がある家を選ぶか?」と質問したところ、50%が和室を選ぶと回答した。住宅デザインにも流行の移り変わりはあるが、和室の人気は衰えていないようだ。

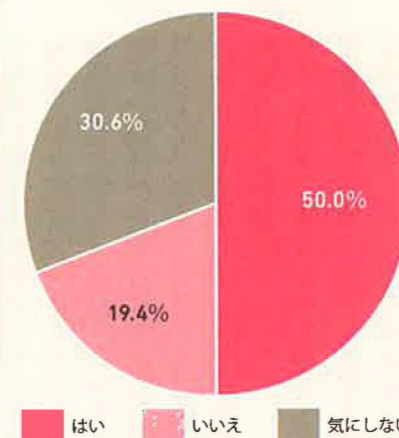
Q 自宅を選ぶとき、和室がある家を選びますか?

## KEYWORD1

### 和モダンデザイン

和室に用いられる伝統的な素材を欧米のモダンスタイルと融合させたデザインのこと。和室の特徴を持ちつつ隣接する洋室のインテリアともなじむため注目されている。

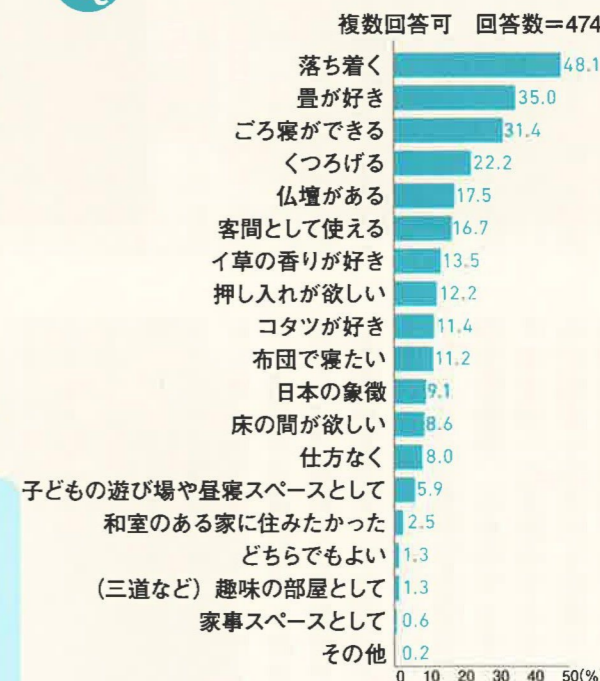
複数回答可 回答数=588



# 和室は50%が家選びで重視、癒やし効果に期待

### データ2

Q 和室がある家を選んだ理由



## 居心地の良さに支持

和室のある家を選んだ理由としては、仏壇を置いたり布団で寝たりしたいという実用性よりも、落ち着くことや畳が好きなど、和室での居心地の良さに関するものが上位に目立った。イ草の香りがする畳の上にごろ寝するといった行為は和室ならではのリラククス方法といえるだろう。一方で、和室のない家を選んだ人は、和室に必要性を感じない(60%)という意見が最も多かった。

## KEYWORD2

### イ草

芳香成分の約20%を占めるフィトンチッドは消臭・殺菌効果を持ち森林の香りの源でもある。このほか鎮静作用のある成分も含まれており高いリラククス効果がある。